

FOMAと無線LANを融合した 企業通信システム「PASSAGE DUPLÉ」

今回は、企業向け通信システム「PASSAGE DUPLÉ（パッセージ・デュプレ）」の主な機能とその利用イメージを紹介する。

無線LAN機能を効果的に 利用できる「PASSAGE DUPLÉ」

NTTドコモは、第三代携帯電話「FOMA」に無線LAN機能を搭載した端末「N900iL」を開発、それに対応した新しい事業所コードレスシステム「PASSAGE DUPLÉ（パッセージ・デュプレ）」の提供を11月16日に開始した（一部地域を除く）。

PASSAGE DUPLÉの大きな特長はもちろん無線LANを利用できることにあるが、これに対するメリットは大きく分けて2つある。

1つは、無線LANシステム上で内線電話を利用できることである。内線電話の制御にはSIPを利用するため、企業は専用のSIPサーバを社内を設置して、IP電話内線網を構築する仕組みである。この他にも無線アクセス・ポイントや専用の無線LANスイッチなども、企業が自営の設備として用意する。支店など他の拠点ともIP-VPNや広域イーサネットなどのWANサービスで接続すれば、無線LAN経由で内線通話が可能となる。また、当然無線LAN

のエリアの内外を問わず、FOMA経由での発着信ができる。

もう1つのメリットは、Webアプリケーションとの親和性が高いことである。N900iLは、通常のiモード用ブラウザと同様、無線LANブラウザも利用できる。社内ではこのブラウザから、無線LAN経由でイントラネットのサーバにアクセスすることが可能である。さらに、グループウェアを利用すれば、社員のスケジュールや連絡先などの情報をパソコンだけでなく携帯電話の画面から閲覧することもできる。また、社員の電話番号などをサーバで一元管理しておくことで、携帯電話が変更されてもデータ更新の手間を取らず

に済む。サーバに社内からアクセスする場合は無線LAN経由のため、通信費用は不要。データ通信速度は最大11Mbit/秒と、高速通信を実現している。もちろん、社外ではiモード経由で利用が可能のため、社内外を問わずにWebアプリケーションを活用できる。

連絡をすばやく的確に伝える 「プレゼンス機能」

PASSAGE DUPLÉでは、Webアプリケーションとの連携以外にも、携帯電話機側に無線LANのための付加機能を備えている。その1つがプレゼンス機能である（図1参照）。この機能により、予め登録して

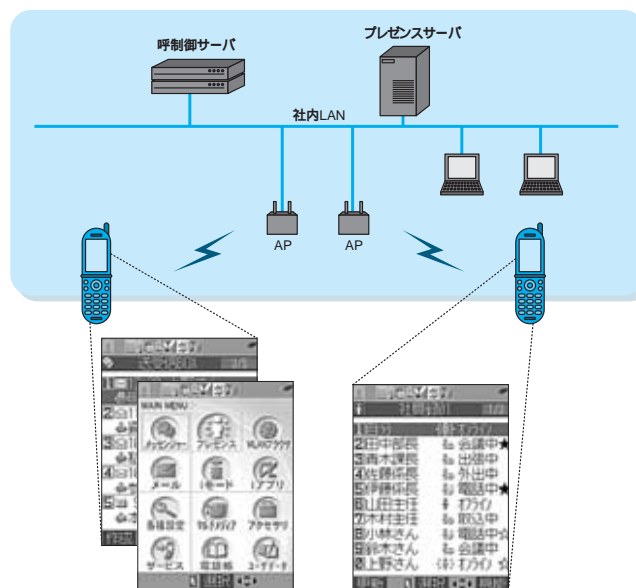


図1 プレゼンス連携のイメージ図

おいたメンバーの状況が携帯電話の画面に表示され、視覚的にわかる仕組みとなっている。例えば「電話中」や「オフライン（外出中）」など、サーバが自動で検知する情報に加え「会議中」「出張中」などの詳細情報をユーザーが随時設定し、表示させることもできる。もう1つは、簡単な文章を即座に相手に送信する「インスタントメッセージ（IM）」である。IMの文字入力には、頻繁に利用するメッセージを事前に登録しておくことも可能である。

これらの機能を組み合わせれば、さらに機能的な使い方ができる。例えば、午後からの会議が急遽変更となった場合、まずプレゼンス機能でメンバーの現在の状態を確認し、来客中の社員にはインスタントメッセージで即座に「変更」のメッセージを送信する。メッセージを受けた社員は、変更後の会議時間までゆとりを持って商談を続けるといった利用

が可能である。

なお、プレゼンス機能には、別途プレゼンスサーバが必要となる。

内線通信エリアを拡大し 拠点間接続も可能に

PASSAGE DUPLÉは、本社と支店など、離れた拠点同士でも、LAN接続ができていれば、本社に設置した呼制御サーバで一元管理できるため、どの拠点でも同じ内線番号で通話ができる。しかも拠点のビジネスホンを削減することもできるので、運用・保守・管理費の削減を実現することができる（図2参照）。

内線機能や認証技術の充実で 高機能な無線LAN環境を実現

PASSAGE DUPLÉ導入時にはユーザー企業に合ったシステム構築を実施するが、この際に、すでに社内無線LANやIP電話システムを利用している企業であれば、導入のハ

ードルは低くなる（音声通話を想定して再設計が必要な場合あり）。

設計にあたってはまず、企業規模やシステム内容に合わせて、ユーザー企業のセキュリティレベルや携帯電話機の台数、設置するエリアなどの基本的な調査を実施する。そして企業内に無線LANアクセス・ポイントを何台設置するか等の具体的な設計を行う。

NTTドコモは当面、「N900i」をベースに無線LANのインタフェースを搭載し、専用のメニュー画面を備えた「N900iL」を提供していく。連続待ち受け時間はFOMAと無線LANのデュアルモードで約150時間、連続通話時間はFOMAモードで約140分、無線LANモードで約160分である。無線LANの仕様はIEEE802.11b方式に準拠し暗号化にWEP、認証にIEEE802.1Xを採用している。クライアント証明書にはNTTドコモの「FirstPass」も利用できる。PASSAGE DUPLÉの内線機能はPBX等のメーカーにより異なるが、ほぼ現状のPBXの内線機能をカバーしている。NTTドコモは今後もSIPサーバやIP-PBXメーカーに検証を働きかけてさらにPASSAGE DUPLÉの対応の幅を広げていく予定だ。

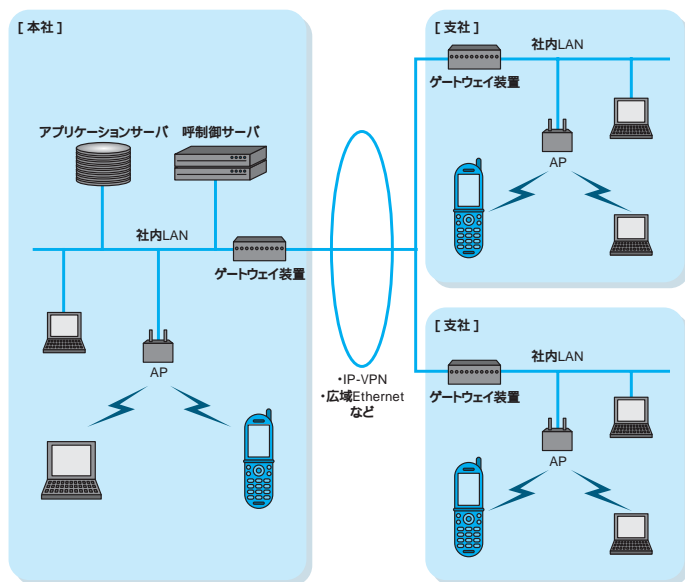


図2 拠点間接続のイメージ図

お問い合わせ先

DoCoMo Business Online
<http://www.docomo.biz/056/>